

資 料	水－2
作 成	水 道 局 総 務 部
提 出	平成 27 年 1 月 22 日

札幌市水道事業 5 年計画の進捗について

札幌市水道局

札幌市水道事業5年計画（2010－2014）主要事業 進捗状況 ～平成25年度決算版～

5年計画の4年目となる平成25年度の主な取組状況は以下のとおりです。今後も計画に沿って着実に事業を進めてまいります。

目標1 安全で良質な水の確保

計画期間中の目標	達成度（達成年度）
1 水源保全の強化	3 ページ
・豊平川水道水源水質保全事業の本体工事着手	目標達成（H24）
2 将来水源の確保・水源の分散化	3 ページ
・石狩西部広域水道企業団への参画継続	取組を継続
3 水質検査の適正な実施	4 ページ
・水質基準不適合率 0.0%を維持	目標値達成を継続
4 水質監視の強化	4 ページ
・給配水水質自動計器設置数 44 施設（5 施設の増）	目標達成（H22）
・水質自動計器の更新、水質情報管理システムの更新	目標達成（H23）

目標2 安定した水の供給

計画期間中の目標	達成度（達成年度）
5 導水・浄水施設の整備・改修	5 ページ
・白川浄水場の場内連絡管整備に着手	目標達成（H24）
・西野浄水場の西野導水管整備、配水池流入管改修	実施時期を見直し
・藻岩浄水場の山鼻導水管改修	目標達成（H24）
6 高区配水施設の整備	6 ページ
・伏見配水池の整備	実施時期を見直し
・白川第1ポンプ場の整備	実施期間の延長
・平岡ポンプ場の整備	目標達成（H24）
・南沢第1ポンプ場の整備	目標達成（H25）

計画期間中の目標	達成度（達成年度）
7 配水管の整備	7 ページ
・口径 400mm 以上の幹線延長 414km（4 km の増）	目標達成の見込み
・口径 350mm 以下の準幹線・枝線延長 4,798 km（50 km の増）	目標達成の見込み
・平岸第2幹線の整備完了、平岸連絡管の整備継続、拓北幹線の整備継続	目標達成の見込み
8 給配水管の改修	8 ページ
・外面腐食管の改良済延長 327km（56km の増）	目標達成（H24）
・白石幹線、桑園発寒通幹線、新琴似一番通幹線の改修、北幹線の改修着手	目標達成の見込み
9 水道設備の更新	9 ページ
・白川浄水場の低圧配電盤類、沈降傾斜板更新	目標達成（H24）
・浄水場（藻岩、西野、定山溪、宮町）の計算機設備更新	目標達成の見込み
・西野浄水場のろ過池洗浄用ポンプ更新	実施時期を見直し
・定山溪浄水場の低圧配電盤類、取水場自家発電設備更新	目標達成（H24）
10 水道施設の耐震化	10 ページ
・配水池耐震施設率 84.3%（24.2%の増）	実施期間の延長
・基幹管路の耐震化率 36.3%（3.7%の増）	目標達成（H24）
・管路の耐震化率 20.7%（5.1%の増）	目標達成（H25）
・耐震性を備えた庁舎数 11 庁舎（6 庁舎の増）	実施時期を見直し
・札幌市災害時基幹病院へ向かう配水管の耐震化完了	目標達成（H24）
11 送水管の新設	11 ページ
・白川第3送水管の布設延長 4.6km（3.2km の増）	目標達成（H25）

札幌市水道事業5年計画（2010－2014）主要事業 進捗状況 ～平成25年度決算版～

計画期間中の目標	達成度（達成年度）
12 水道施設の保安強化	11 ページ
・フェンス・ドア等の強化工事の継続実施	目標達成の見込み
13 災害応急体制の堅持・強化	12 ページ
・水道局独自訓練実施回数 5 回／5 年間	目標達成の見込み
・応急給水拠点施設の見学会実施施設数 延べ 121 施設（75 施設の増）	目標達成の見込み

目標3 利用者に満足される水道

計画期間中の目標	達成度（達成年度）
14 小規模貯水槽水道の衛生管理の充実	13 ページ
・小規模貯水槽水道の衛生管理改善指導業務実施件数 4,123 件（H21～23 の3か年）	目標達成（H23）
15 電話受付センターのサービス向上	13 ページ
・電話受付センターの年間業務処理件数（期間中平均）229,600 件	目標値達成を継続
16 メーター検針環境の改善	14 ページ
・モデル地区対象住宅への無線式メーター設置率 100%	目標達成（H23）
・実証実験の実施と取りまとめ	目標達成の見込み
17 水道料金支払い方法の多様化	14 ページ
・クレジットカード収納利用件数 78,100 件	目標達成（H24）
18 広報・広聴活動の充実	15 ページ
・水道記念館の来館者（期間中平均）60,000 人／年	目標値達成を継続
・広報用映像記録製作	目標達成（H23）

目標4 健全経営のもと自律した水道

計画期間中の目標	達成度（達成年度）
19 財務基盤の強化	16 ページ
・企業債残高 1,039 億円（488 億円の減）	目標達成の見込み
・給水収益に対する企業債残高の割合 267%（131%の減）	目標達成の見込み
・自己資本構成比率 60.2%（11.9%の増）	目標達成（H25）
・企業債借入額の上限を 30 億円（期間中平均）に設定	目標達成の見込み
・未利用地 1 件の売却	目標達成（H24）
20 経営の効率化	17 ページ
・組織体制の見直しによる更なる効率化	目標達成（H23）
・業務委託範囲の拡大	目標達成（H23）
・検針業務の競争性向上	目標達成（H23）
21 人材の育成	18 ページ
・内部研修時間 13.1 時間／年（1.6 時間／年の増）	目標値達成を継続
・研修用映像記録 10 本作成	目標達成の見込み
・海外研修員（JICA）の受入 10 回、延べ 80 人	一部事業中止により目標達成できない見込み
22 情報管理体制の充実	19 ページ
・基幹情報システムのバックアップシステムの導入	目標達成（H25）
・仮想化技術を活用したサーバ機器の統合	目標達成（H25）
23 新エネルギーの導入	20 ページ
・新エネルギーにより発電される電力量 270 万 kwh（1 万 kwh の増）	目標達成（H22）
・平岸配水池に水力発電設備を導入	実施時期を見直し
・配水センター屋上に太陽光発電設備を設置	目標達成（H22）
24 環境配慮型経営の推進	21 ページ
・環境報告書の作成と公表	目標達成の見込み

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

1 水源保全の強化

事業の必要性	豊平川ではダムから取水場まで原水が流下する間に有害物質を含む自然湧水が流入しており、その影響を低減する必要がある。		
取組の方向性	バイパスシステムを構築し自然湧水を含む水を取水場よりも下流に放流するなど、ダムから浄水場に至る間のさまざまな汚染リスクを取り除く取組を進めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
豊平川水道水源水質保全事業（バイパスシステムの構築）本体工事着手（24年度）	関係機関との許認可協議を引き続き行い、国立公園内の工事について許可を受けました。 また、導水路等の本体工事に先駆けて、豊平川を横断する水管橋建設工事に着手しました。	引き続き関係機関との許認可協議を行い、水利権の変更及び河川区域内の工事に係る許可を受けました。 また、水管橋の建設工事を進めました。	今後、水管橋及び導水路等の建設工事を進め、32年度の事業完了を目指して着実に事業を進めていきます。
達成度：目標達成			

2 将来水源の確保・水源の分散化

事業の必要性	豊平川が札幌水道の水源に占める割合は98%に達し、依存度が極めて高く、安全な水を安定して届けるためには新たな水源を確保し、水源の分散化や送水ルートの二重化を図る必要がある。		
取組の方向性	石狩西部広域水道企業団から受水を受ける（37年度予定）など、豊平川以外に水源を確保する取組を進めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
石狩西部広域水道企業団への参画継続	企業団への参画を継続しました。 企業団では水源となる当別ダムを完成させるとともに、25年度からの小樽市、石狩市、当別町への用水供給を行うための第1期工事として、浄水場を完成させました。 また、水道水の供給開始にあたり、施設を適切に運転、維持管理し、安定した用水供給を行っていくため、水道局職員を追加で派遣し、出資団体である水道サービス協会とともに引き続き浄水場の運営を支援しています。	企業団への参画を継続しました。 25年4月1日から小樽市、石狩市、当別町への用水供給を開始した企業団の運営及び施設の運転・維持管理のために職員を派遣し、安定した用水供給に協力しています。	企業団では施設を適切に運転、維持管理し、安定した用水供給を行っていきます。 本市も企業団への参画を継続し、水道サービス協会とともに引き続き浄水場の運営を支援していきます。
達成度：取組を継続			

3 水質検査の適正な実施

事業の必要性	河川での藻類の発生などに起因するかび臭や、局所的な豪雨に伴う河川の濁りなどの水質問題への対応とともに、水道水質基準の強化や測定項目の追加などに対応できる検査体制とする必要がある。		
取組の方向性	適正な水質検査を計画的に実施するとともに、適宜行われる水質基準改定に対応できる検査体制を整える。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
水質基準不適合率 0.0%を維持 達成度：目標達成を継続	適正な水質検査を計画的に実施し、水質基準不適合率 0.0%を維持できていることを確認するとともに、水質検査・監視計画や水質検査結果をホームページ等で公表しました。23年3月には水道G L P（※）の更新認定を受け、水質検査の適切な精度管理を行う体制を維持し、23年12月には水質管理センターに放射性物質測定装置を導入し、全浄水場の水道水から放射性物質が検出されないことを確認しました。	水質検査・監視計画に基づき、計画的な水質検査を適正に実施し、水質基準不適合率 0.0%を維持できていることを確認するとともに、放射性物質等の汚染がなく、水道水が安全であることを確認しました。また、水質検査・監視計画や水質検査結果をホームページ等で公表しました。	引き続き水質検査・監視計画を毎年策定し、計画的な水質検査を行うとともに、水源監視により水質悪化の未然防止に努め、水質基準不適合率 0.0%を維持していきます。

※水道G L P：水質検査結果の信頼性を確保することを目的に日本水道協会が定めた水質検査手順などの規格

4 水質監視の強化

事業の必要性	水道水の安全性を確保していくため、水源の水質監視体制を強化していく必要がある。		
取組の方向性	水質監視や水質検査体制、調査研究を強化し、充実した水質管理体制を構築していく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
給配水水質自動計器の増設： 20年度 34 施設 (21年度末時点 39 施設) →26年度 44 施設 達成度：目標達成	22年度に5施設で設置した結果、給配水水質自動計器の数は合計 44 施設となり、目標を達成しました。	22年度に目標達成済みです。	水質の監視において水質自動計器は非常に大きな役割を果たすことから、水質監視体制を万全なものとするため、計器の更新を計画的に進め、計器の更新の際には新しい技術の調査や導入検討を行います。また、引き続き充実した水質管理体制の構築に努めていきます。
水質自動計器の更新 水質情報管理システムの更新 達成度：目標達成	藻岩ダム、発寒川取水場に設置している水源水質自動計器(油分計、アンモニア計)を更新しました。また、水質情報管理システムの更新を完了しました。	23年度に目標達成済みです。	

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

5 導水・浄水施設の整備・改修

事業の必要性	浄水場の多くが昭和40～50年代に整備され、経年劣化が進んでいるため、安定給水の継続には施設設備の更新や機能の維持向上に係る整備を適切な時期に効率的・効果的に実施していく必要がある。		
取組の方向性	導水・浄水施設の整備改修を進めるほか、市内最大の浄水場である白川浄水場の改修に向けた検討を進めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
白川浄水場の場内連絡管整備着手	白川浄水場の場内連絡管整備は、白川第1、2浄水池の改修に向け、両浄水池に接続する連絡管（2ルート）のうち1ルートの整備工事に着手しました。 また、今後の大規模更新等に関して、改修基本計画の策定に向けた基本検討を継続して進めたほか、関係機関との協議を開始しました。	引き続き連絡管の整備工事を進めました。また、浄水場の改修の基本的な考え方などを示す「白川浄水場改修基本方針」を定めました。	場内連絡管整備のうち1ルートについては工事に遅れが生じたため26年度中に完了する予定です。 他の1ルートについては、今後検討していきます。
達成度：目標達成			
西野浄水場の西野導水管整備、配水池流入管改修	西野浄水場の整備・改修は、詳細な耐震診断により、広範囲にわたる耐震化工事が必要となることが判明しました。そこで、耐震化工事に加え、管路の整備や設備の更新も含めた改修を行うことが合理的であると判断し、整備方法や整備時期について詳細な検討を進めました。	耐震化工事の実施に向けた詳細な検討を進めました。	耐震化工事は32年度完了を目指し、検討を進めていきます。
達成度：実施時期を見直し			
藻岩浄水場の山鼻導水管改修	藻岩浄水場の山鼻導水管改修は、更新予定箇所（総延長3.28km）の工事を完了しました。	24年度に目標達成済みです。	
達成度：目標達成			

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

6 高区配水施設の整備

事業の必要性	高台地区への給水を担う高区配水施設（ポンプ場・高区配水池）は、急速な市街地の拡大に伴って整備している箇所が多く、維持管理上支障が生じている施設や非効率な施設配置となっている配水システムがあり、より安定的な運用・維持管理が可能となるように、効率的な配水システムに改善する必要がある。		
取組の方向性	配水システムの機能強化や効率化に向けて、耐震性の確保や設備の更新に併せて、ポンプの改良や施設の集約・移設に取り組む。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
伏見配水池の整備 達成度：実施期間の延長	伏見配水池の整備については、整備計画を精査し、関係者との調整を行いました。	施設の統合など維持管理がしやすい施設となるよう整備計画の見直しを進めました。	26年度に整備計画の見直しと検討を行い、整備方針を決定していきます。
白川第1ポンプ場の整備 達成度：実施期間の延長	白川第1ポンプ場整備に係る実施設計を行いました。	整備工事に着手しました。	工事工程の見直しにより、29年度に整備工事が完了する見込みです。
平岡ポンプ場の整備 （旧北野ポンプ場の移設） 達成度：目標達成	平岡ポンプ場の新設工事が完了しました。高所にポンプ場が新設されたことにより、エネルギー使用量の低減を図ることができました。	24年度に目標達成済みです。	
南沢第1ポンプ場の整備 達成度：目標達成	南沢第1ポンプ場の改修工事を行っています。	改修工事を完了し、計画期間中の目標を達成しました。	
その他ポンプ場の整備 （5年計画外事業）	宮の森第2ポンプ場の移設（「大倉山ポンプ場」の新設として実施）の実施設計を行いました。 北ノ沢第2ポンプ場・配水池の移設に着手しました。	大倉山ポンプ場の新設は入札不調により実施できなかったことから、次年度以降に延期しました。 北ノ沢第2ポンプ場・配水池の移設工事を進めています。	大倉山ポンプ場の新設は28年度の完了に向けて工事を進めていきます。 北ノ沢第2ポンプ場・配水池の移設は、26年度に工事が完了する予定です。

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

7 配水管の整備

事業の必要性	安定給水のため、将来の水需要に対応した、さらには事故や災害に強い配水管網を整備する必要がある。また、札幌市の配水管は昭和40～50年代に集中的な整備を行ってきたため、今後、これらの配水管が次々と更新時期を迎えることから、計画的な対応が必要となっている。		
取組の方向性	計画的な配水管（幹線及び準幹線・枝線）の新設や増設に取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
<p>新設や増設をした口径400mm以上の幹線延長： 21年度410km →26年度414km（4km増）</p> <p>達成度：目標達成の見込み</p>	<p>口径400mm以上の幹線は2.6kmを新設し、幹線延長は412.6kmとなりました。</p>	<p>口径400mm以上の幹線は0.1kmを新設し、幹線延長は412.7kmとなりました。 これにより、計画期間中に新設した幹線延長は2.7kmの増となりました。</p>	<p>幹線、準幹線・枝線とも、計画期間中に目標を達成できる見込みです。 なお、幹線については耐震化と更新を主な目的として24年度に策定した「配水幹線整備基本計画」に基づき、42年度を目標に、4つの基幹配水池系から末端までを連続して耐震化する配水幹線連続耐震化事業を開始しており、その中で幹線の新設を予定しています。</p>
<p>新設や増設をした口径350mm以下の準幹線・枝線延長： 21年度4,748km →26年度4,798km（50km増）</p> <p>達成度：目標達成の見込み</p>	<p>口径350mm以下の準幹線・枝線は24.6kmの新・増設を行い、準幹線・枝線延長は4,772.6kmとなりました。</p>	<p>口径350mm以下の準幹線・枝線は10.3kmの新・増設を行い、準幹線・枝線延長は4,782.9kmとなりました。 これにより、計画期間中に新・増設した準幹線・枝線延長は34.9kmの増となりました。</p>	<p>また、準幹線・枝線についても、24年度に策定した「配水管更新計画」に基づき、25年度から第1期配水管更新事業を開始しており、計画的に更新事業を進める予定です。</p>
<p>平岸第2幹線の整備完了 平岸連絡管の整備継続 拓北幹線の整備継続</p> <p>達成度：目標達成の見込み</p>	<p>以下のとおり事業を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平岸第2幹線整備の整備完了 平岸連絡管の整備 施工延長1.33km 拓北幹線の整備 施工延長0.41km 	<p>以下のとおり事業を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平岸連絡管の整備 施工延長0.06km 	<p>平岸連絡管の整備は26年度完了を予定しています。 拓北幹線の整備は29年度完了を予定しています。</p>

8 給配水管の改修

事業の必要性	腐食性の高い土壤に埋設された配水管は、外面が腐食し漏水の原因となりうるため、管の改良が必要となっている。また、古くなり内面が劣化した配水管や複雑に入り組んだ管路が維持管理費用の増加を招く懸念があり、改善が必要である。		
取組の方向性	機能が低下した配水管を更新・改修することにより、配水管網の機能を向上させるとともに、維持管理の効率化を図っていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
<p>外面腐食管の改良済延長： 21年度 271 km →26年度 327 km（56 km増）</p> <p>達成度：目標達成</p>	<p>準幹線や枝線の外面腐食管の改良を進め、計画期間中の目標を達成しました。</p> <p>外面腐食管の改良済延長 328.4km （57.4km増）</p>	<p>引き続き準幹線や枝線の外面腐食管の改良を進めました。</p> <p>外面腐食管の改良済延長 329.0km （0.6km増）</p>	<p>北24条幹線の外面腐食管の改良は、26年度に完了する予定です。</p> <p>北幹線の改修は、既設の北幹線の更新と北栄幹線の 신설により2路線一体で従来の北幹線の機能を担うこととしており、26年度から北栄幹線の 신설に着手します。</p> <p>災害時における安定給水の確保を図るため、24年5月に「配水幹線整備基本計画」を策定しました。この計画に基づき骨格となる幹線の連続耐震化を確実に遂行していきます。</p> <p>準幹線・枝線の外面腐食管の改良については、平成25年度から開始している第1期配水管更新事業の中で優先的に推進していきます。</p> <p>補助管については、管内面の劣化が懸念される単層ポリエチレン管の取替えを行っていきます。</p>
<p>幹線の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白石幹線の改修 ・桑園発寒通幹線の改修 ・新琴似一番通幹線の改修 ・北幹線の改修に着手 <p>外面腐食管改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二十四軒幹線の改良 ・北24条幹線の改良 <p>達成度：目標達成の見込み</p>	<p>白石幹線、桑園発寒通幹線、新琴似一番通幹線、二十四軒幹線の改修を完了しました。</p> <p>北24条幹線の外面腐食管の改良を実施しました。</p>	<p>北24条幹線の外面腐食管の改良を継続しました。</p>	

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

9 水道設備の更新

事業の必要性	浄水場の多くが昭和40～50年代に整備され、経年劣化が進んでいるため、安定給水の継続には機械設備や電気設備、ポンプ設備の機能保持が課題である。		
取組の方向性	日常的な点検整備や適切な維持管理により延命化を図るほか、使用状況などを勘案し計画的な更新を行っていく。また、更新にあたっては、省エネルギー型の機器を導入することで、エネルギー使用量の減少に努めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度を取組状況	今後の取組
白川浄水場の低圧配電盤類、沈降傾斜板更新 達成度：目標達成	白川浄水場の低圧配電盤類及び沈降傾斜板の更新を完了し、計画期間中の目標を達成しました。	24年度に目標達成済みです。	
藻岩・西野・定山溪・宮町浄水場の計算機設備更新 達成度：目標達成の見込み	藻岩浄水場、西野浄水場、定山溪浄水場の計算機設備の更新工事を完了しました。宮町浄水場の計算機設備更新の実設計を行いました。	宮町浄水場の計算機設備更新に着手しました。	宮町浄水場の計算機設備更新は26年度に完了を予定しています。
西野浄水場のろ過池洗浄用ポンプ更新 達成度：実施時期を見直し	西野浄水場のろ過池洗浄用ポンプの更新は26年度までに実施予定でしたが、浄水場の詳細な耐震診断により、広範囲にわたる耐震化工事が必要となることが判明しました。そこで、浄水場の耐震化に併せて設備の更新を行うことが合理的であると判断し、今後は、更新時期の検討を進めていきます。	更新時期の検討を進めました。	西野浄水場の耐震化工事は32年度完了を目指し事業を進め、これに併せてポンプの更新を行います。
定山溪浄水場の低圧配電盤類、取水場自家発電設備更新 達成度：目標達成	定山溪浄水場の低圧配電盤類及び取水場自家発電設備更新を完了しました。	24年度に目標達成済みです。	

10 水道施設の耐震化

事業の必要性	水道施設の耐震化は決して十分な状況とはなっていないため、効果的に水道システム全体の機能維持を強化していく必要がある。		
取組の方向性	浄水場から管路まで骨格となる基幹施設の耐震化や、災害時に重要な医療機関に向かう配水管の耐震化を優先して行っていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
配水池耐震施設率： 20年度 60.1% →26年度 84.3%（24.2%増） 達成度：実施期間の延長	平岸配水池は全体工程の見直しを行い、2池目の耐震化工事に着手しました。また、常盤高台配水池の耐震化工事を実施しました。 その他の配水池においても、耐震診断や耐震化工事に向けた実施設計を行いました。配水池耐震施設率は66.5%です。	平岸配水池は4池のうち2池目までの耐震化が完了し、3池目の耐震化工事に着手しました。また、常盤高台配水池及び藻岩下第2配水池の耐震化工事が完了し、配水池耐震施設率は71.7%となりました。 さらに、南沢第3配水池の耐震化工事に着手しました。	平岸配水池の耐震化は引き続き着実に進め、27年度に完了する予定です。
基幹管路の耐震化率： 20年度 32.6% →26年度 36.3%（3.7%増） 管路の耐震化率： 20年度 15.6% →26年度 20.7%（5.1%増） 達成度：目標達成	下手稲通幹線、東北通幹線の基幹管路に加え、準幹線・枝線などの耐震化工事を実施しました。 基幹管路の耐震化率は36.6%、管路の耐震化率は19.9%となり、基幹管路の耐震化率は計画期間中の目標を達成しました。	引き続き、基幹管路に加え、準幹線・枝線などの耐震化工事を実施しました。 基幹管路の耐震化率は36.9%、管路の耐震化率は21.2%となり、計画期間中の目標を達成しました。	幹線は24年5月に策定した「配水幹線整備基本計画」に基づき、42年を目標に基幹配水池ごとに配水池出口から幹線1ルートを連続して耐震化を進めていきます。
耐震性を備えた庁舎数： 20年度 5庁舎/11庁舎 →26年度 11庁舎/11庁舎 （6庁舎増） 達成度：実施時期を見直し	庁舎の耐震化を実施し、11庁舎のうち8庁舎が耐震性を有する施設になりました。	中部水道センターにおいて、耐震性が低いと判定された設備の耐震補強を行いました。その結果、11庁舎のうち9庁舎が耐震性を有する施設となりました。 また、耐震化を終えてない庁舎について、耐震化に向けた検討を進めました。	平岸庁舎の耐震化は隣接する配水池耐震化工事と調整した結果、29年度に実施する予定です。東庁舎は耐震基準を満たしておらず、経年劣化による内外壁及び床のひび割れ等も多数見られることから、早期に使用を中止する予定です。
札幌市災害時基幹病院へ向かう配水管の耐震化完了 達成度：目標達成	札幌市災害時基幹病院 13箇所へ向かう配水管の耐震化を完了し、計画期間中の目標を達成しました。 また、救急告示医療機関等の16箇所へ向かう配水管の耐震化を進めることとし、このうち、6箇所へ向かう配水管の耐震化を完了しました。	救急告示医療機関等へ向かう耐震化は、3箇所へ向かう配水管の耐震化を完了しました。 これにより、合わせて9箇所へ向かう配水管の耐震化を完了しました。	救急告示医療機関等の16箇所へ向かう配水管の耐震化は26年度に完了する予定です。

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

11 送水管の新設

事業の必要性	市内最大の浄水場である白川浄水場から基幹配水池まで水道水を運ぶ送水管は非常に重要な施設であるが、昭和40～50年代に布設された白川第1、第2送水管は経年劣化が進んでいるほか、耐震化されていないことが課題となっている。		
取組の方向性	送水ルートを複数化することにより安全で安定した給水を確保するとともに、既設送水管の将来の更新に備えて代替機能を確保するため、白川第3送水管を新たに布設する。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績	今後の取組
白川第3送水管の布設延長 (白川～平岸間)： 21年度 1.4 km/11.0 km →26年度 4.6 km/11.0 km (3.2 km増) 達成度：目標達成	白川第3送水管の布設延長は約4.5km (3.1km増)となり、事業の進捗率は96.9% となりました。	約0.6kmを新設し、布設延長は約5.1km (3.7km増)となりました。 これにより、計画期間中の目標を達成しました。	白川第3送水管の新設は30年度の完了を 目指し工事を継続していきます。

12 水道施設の保安強化

事業の必要性	テロリストによる破壊活動などの懸念が広がる中、市民の健康的な生活に密接に関わる水道では、テロ等による水道水の汚染を未然に防ぐため、セキュリティや危機管理体制の強化が強く求められている。		
取組の方向性	警報装置や侵入防止策の設置など、施設のセキュリティ対策を強化するとともに、情報管理などにおいても予防策を講じていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績	今後の取組
フェンス・ドア等の強化工事の 継続実施 達成度：目標達成の見込み	強化済みフェンス延長は1,654mとなり ました。さらに、ドア・窓については29施 設の整備を完了しました。 また、24～28年度を計画期間とする新たな 保安強化整備事業実施計画を策定しまし た。この計画に基づき、以下の施設のフェ ンスの実施設計を発注しました。 簾舞配水池、藤野沢配水池、西岡高台ポン プ場・配水池、平和ポンプ場・配水池、配 水センター、藻岩ポンプ場、オカバルシポ ンプ場、芸術の森ポンプ場、滝野ポンプ場、 福井ポンプ場	フェンスの整備については10施設（白川 浄水場、山鼻取水場、藻岩ポンプ場、簾舞 配水池、藤野沢配水池、藻岩下第2ポン プ場・配水池、常盤高台配水池、西野高台ポ ンプ場・配水池、平和ポンプ場・配水池、 福井ポンプ場）の工事を実施しました。（整 備延長1,886m） これにより、強化済みフェンス延長は 3,540mとなりました。	今後もフェンスを中心に整備を継続して 進めていきます。

13 災害応急体制の堅持・強化

事業の必要性	市民生活と都市活動に必要なライフラインとして、事故や災害に対し、それに耐えうる施設や水道管などの整備を進めるばかりでなく、被害があった場合にもその影響を小さくし、できるだけ水を届ける応急給水体制を整えておく必要がある。		
取組の方向性	緊急貯水槽などの応急給水拠点施設の整備とともに、家庭での飲料水の備蓄など、市民と協働で災害に備える取組を進めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績	今後の取組
水道局独自訓練実施回数： 20年度1回/年 →26年度5回/5ヵ年	市総合防災訓練での応急給水訓練に参加したのを始め、24年11月20日に水道局災害対策訓練を独自に実施し、改訂したマニュアルを活用して実践的な災害対策本部訓練を実施しました。 これにより、水道局独自訓練は年1回の実施を継続しています。	25年8月に「札幌市総合防災訓練」に参加し、応急給水訓練を実施しました。 25年10月に仙台市で行われた「札幌市水道局・新潟市水道局・仙台市水道局災害対応合同訓練」での合同応急給水訓練に参加し、災害発生時に重要な応援水道事業体との連携強化を図りました。 25年12月に「水道局災害対策訓練」を行い、ロールプレイング方式による災害対策本部運用訓練などを実施しました。 これにより、水道局独自訓練は年1回の実施を継続しています。	訓練については引き続き「札幌市総合防災訓練」での応急給水訓練に参加するとともに、「水道局災害対策訓練」は年1回の実施を継続します。
達成度：目標達成の見込み			
応急給水拠点施設の見学会実施施設数： 20年度延べ34施設 (21年度末実績延べ46施設) →26年度延べ121施設 (計画期間中目標75施設)	施設見学会はこれまでに延べ93施設で実施しています。 これにより、計画期間中では延べ47施設で施設見学会を実施し、進捗率は63%となりました。	17施設で開催し、これまでに延べ110施設で実施しています。 これにより、進捗率は85%となりました。	応急給水施設の見学会は日程調整など地域住民との事前調整を円滑に行い、連携を深めながら取り組んでいきます。
達成度：目標達成の見込み			

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

14 小規模貯水槽水道の衛生管理の充実

事業の必要性	小規模な貯水槽水道に対する実態調査の結果、設置者や管理会社等の貯水槽の衛生管理に対する認識が低いなど、さまざまな課題があることが明らかとなった。		
取組の方向性	小規模貯水槽水道の衛生管理を徹底するため、調査を行い改善指導に努めるとともに、保健所などと連携して衛生管理の徹底を図っていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
小規模貯水槽水道の衛生管理改善指導業務実施件数： 4,123件 (21～23年度の3カ年)	小規模貯水槽水道の衛生管理徹底を目的として21～23年度に行う調査を4,635件行い、発見した管理不備については管理責任者に対して指導、助言を行い、衛生管理の徹底を促しました。 このことにより、計画期間中の目標を達成しました。 引き続き24～26年の3カ年で4,200件を目標に調査を開始し、24年度については1,402件行い、506件の管理不備を発見し、指導、助言を行いました。	1,400件の調査を行い、560件の管理不備を発見し、管理責任者へ適正な管理方法等について指導、助言を行い衛生管理の徹底を促しました。	15年度の調査開始から10年が経過し、良好施設の増加、設備不備施設の減少など一定の成果は見られるものの、依然として調査を拒否する施設が多く、衛生管理に対する意識はまだ十分とは言えません。 今後も小規模貯水槽水道の衛生管理を徹底するため、指導、助言の取組を継続していきます。
達成度：目標達成			

15 電話受付センターのサービス向上

事業の必要性	電話受付センターでは引っ越しの際の受付や夜間・休日の急な水道の故障などの相談を24時間年中無休で行っているが、ワンストップサービスとしては利便性向上の余地がある。		
取組の方向性	問い合わせ対応の一層の充実など、より高度な業務が可能となるよう、さらなる機能拡充の取組を進めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
電話受付センターの年間業務処理件数： 229,600件（期間中平均）	処理件数は期間平均 233,622件（22年度 229,054件、23年度 232,364件、24年度 239,449件）でした。 電話等の増設や計画停電等に関する項目をよくある質問の問答集に追加するなど、受付体制の強化を図りました。	25年度業務処理件数は266,618件でした。	電話受付センターにはさまざまな問い合わせが寄せられていることから、よくある質問集の内容充実と回答の迅速化を図ります。
達成度：目標値達成を継続			

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

16 メーター検針環境の改善

事業の必要性	積雪寒冷地である札幌市では、積雪等でメーターを検針できない場合は過去や直近の使用実績をもとに概算で請求し、次回以降に精算を行っているが、概算での請求を減らし明瞭な料金請求を行うことが望ましい。		
取組の方向性	積雪等の影響を受けない無線式メーターの調査研究を行い、将来の水道メーターのあり方を検討していく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
モデル地区対象住宅への無線式メーター設置率： 20年度 72.6% →24年度 100.0% 達成度：目標達成	モデル区（厚別区）において積雪の影響を受ける地下式メーターの無線式メーター設置率が100%となりました。	23年度に目標達成済みです。	これまでの検証結果をまとめ、26年度中に今後の方針を決定します。
無線式メーターの実証実験の開始（23年度から） 実証実験の調査結果取りまとめ（26年度） 達成度：目標達成の見込み	無線式メーターの導入効果を検証するため、モデル地区（厚別区）と他9区の冬期実検率、業務処理状況、人件費等に係る比較や、モデル地区と北区の一部地区において、メーター器種ごとの所要時間を計測するなどの実地調査を行いました。	メーターの購入単価の推移や他都市の無線式メーターの設置状況の調査を行いました。また、無線式メーターの導入に関する水道モニターアンケートを実施し、市民の意識調査を行いました。	

17 水道料金支払い方法の多様化

事業の必要性	料金の支払い方法については、利用者の利便性や費用対効果を考慮しながら更なる充実を図っていく必要がある。		
取組の方向性	利用者から要望が高いクレジットカード収納について、利便性向上の観点から導入に向けた取組を進めていく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
クレジットカード収納利用件数： 20年度 0件 →26年度 78,100件 達成度：目標達成	24年度末のクレジットカード払い利用件数は92,569件となりました。 【納区別普及率】24年度末時点 納付制 28.53% 口座制 59.00% カード制 12.47%	25年度末のクレジットカード払い利用件数は105,576件となりました。 【納区別普及率】25年度末時点 納付制 28.71% 口座制 57.25% カード制 14.04%	引き続き以下の取組により、クレジットカード払いの利用促進を図ります。 ・水道フェスタ等の各種イベントにおいてクレジットカード申込書を配布する ・各区役所窓口でクレジットカード申込書を設置する ・納入通知書の裏面や市民向けの郵便物を利用したPRを行う ・水道局ホームページでPRを行う

18 広報・広聴活動の充実

事業の必要性	利用者の視点に立ったサービスの充実を図るためには、利用者が知りたい情報を的確に把握し、その内容をわかりやすく伝える必要がある。		
取組の方向性	対話型コミュニケーション機会の充実を図りながら、利用者の知りたい情報を的確に把握する手法を検討するとともに、地域や年代に適した伝え方を工夫し、よりきめ細やかな広報・広聴活動の実現に向け取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
水道記念館の来館者 60,000人/年（期間中平均）	水道記念館最大のイベントである「さっぽろ水道フェスタ2012」や、「秋まつり」などの大きなイベントのほか、随時「工作会」や「おはなし会」等を開催するなど、来館者のニーズなどを踏まえたイベントを実施しました。このほか、他局との共催イベント等に積極的に参加し、来館者を増やす取組を行っています。 水道記念館の来館者数の期間中平均は93,344人となり、各年度の実績は以下のとおりです。 22年度：91,567人 23年度：93,977人 24年度：94,488人	「さっぽろ水道フェスタ」やこれに次ぐイベントである「水道記念館秋まつり」の広報強化や、「工作会」「おはなし会」といった気軽に参加できるイベントも定期的開催し、集客を図りました。 また、夏期における避暑地としてテレビや雑誌等で数多く取り上げられたことや、利用者の口コミ効果なども手伝い、8月の来館者数が大幅に伸びています。 これらのことから、来館者が初めて10万人を超え、最終的には112,330人を記録し、目標及び前年度実績を大きく超える結果となりました。	来館者アンケートにより来館者の動向（初めての来館か否かなど）を探り、新規来館者の増加につながる催しの検討や、新たな展示装置について市民の意見を調査していきます。
達成度：目標値達成を継続			
広報用映像記録製作	札幌の水道のしくみを紹介する既存の広報用動画「いのちをつなぐ水の旅」を改訂しました。 また、この動画を市内すべての市立小学校（209校）や中央図書館等に配布し、環境学習や水道事業への理解を深めていただくための教材として利用していただきました。	23年度に目標達成済みです。	
達成度：目標達成			

19 財務基盤の強化

事業の必要性	今後、水道施設の大規模更新期が到来し、多額の費用がかかることが見込まれており、これからも健全経営を続けていくためには財務基盤の強化が課題である。		
取組の方向性	企業債残高の縮減に引き続き取り組むとともに、効率的な事業運営を図って利益を確保し、将来の事業に必要な財源の確保に取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
<p>企業債残高： 20年度 1,527億円 →26年度 1,039億円 (488億円減) 達成度：目標達成の見込み</p>	<p>企業債残高は1,158億円となりました。</p>	<p>借入額を抑制した結果、企業債残高は1,074億円となりました。</p>	<p>計画策定時に比べ、給水収益が減少しており、給水収益に対する企業債の割合や自己資本構成比率などの指標の目標達成のためには、利益の確保や企業債の借入抑制などについて、計画を上回る取組が必要となっています。</p> <p>今後も引き続き、収入の確保や経費の削減に努め、将来的にも過大な負担とならないよう企業債を適正に管理しながら、健全経営を維持し、財務基盤の強化を図っていきます。</p>
<p>給水収益に対する企業債残高の割合：20年度 398% →26年度 267% (131%減) 達成度：目標達成の見込み</p>	<p>給水収益に対する企業債残高の割合は303%となりました。</p>	<p>給水収益に対する企業債残高の割合は285%となりました。</p>	
<p>自己資本構成比率： 20年度 48.3% →26年度 60.2% (11.9%増) 達成度：目標達成</p>	<p>自己資本構成比率は58.0%となりました。</p>	<p>自己資本構成比率は61.0%となりました。これにより期間中の目標を達成しました。</p>	
<p>企業債借入額の上限を30億円/年度に設定（期間中平均） 達成度：目標達成の見込み</p>	<p>企業債借入額は計画の30億円に対し、各年度で以下の借入に止めました。</p> <p>22年度：25億円 23年度：25億円 24年度：20億円</p>	<p>企業債借入額は計画の30億円に対し20億円の借入に止めました。</p>	
<p>未利用地1件の売却 達成度：目標達成</p>	<p>23年7月に行った機構再編により生じた未利用地2件（手稲区宮の沢）について、随時募集売り払いを実施し、うち1件を302,800千円で売却しました。</p>	<p>未利用地1件を72,600千円で売却しました。</p>	

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

20 経営の効率化

事業の必要性	今後の大規模更新等に伴う経費の増大や、いわゆる団塊世代の職員が退職し、職員数が減少していく中で、サービスを低下させることのない組織を構築していく必要がある。		
取組の方向性	組織の簡素化や効率化を図るほか、業務委託の拡大など業務の効率化に取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績	今後の取組
出先庁舎のあり方についてとりまとめを行う 組織体制の見直しによる更なる効率化を進める 達成度：目標達成	23年7月19日に機構再編を行い、出先庁舎8庁舎を6庁舎に集約しました。これにより、職員14名、人件費約1億1,000万円、庁舎の維持管理費約2,500万円の削減効果がありました。また、出先庁舎の集約による料金部門と配水部門間の情報共有や連携強化のほか、本局に集約した業務の効率化や事務の統一化等の面で効果がありました。	今後の施設更新や管路更新に伴う業務量の増加に備えた組織体制について検討を行いました。	引き続き今後の業務量の増加に備えた組織体制について検討していきます。
業務委託範囲の拡大 達成度：目標達成	配水センターの維持管理業務のうち小規模配水池の池清掃業務などを委託拡大しました。また、給水装置工事検査業務について25年度から一部区域において委託を行うこととしました。	給水装置工事検査業務を一部区域において委託しました。	給水装置工事検査業務については、段階的に業務委託する区域を拡大していきます。また、他の業務についても引き続き委託拡大に向けた検討を行っていきます。
水道メーター検針業務の競争性向上 達成度：目標達成	水道メーター検針業務は21年度から試行的に民間事業者へ業務委託の可否の検証を進め、23年9月に検針業務の民間事業者への委託拡大の方針を決定し、24年8月から豊平区及び清田区を1地区、西区と手稲区を1地区として、これら2地区を民間事業者に委託しました。	24年度に目標達成済みです。	水道メーター検針業務の民間事業者への委託については、現在行っている民間事業者による業務の実施状況に問題がなければ、27年8月からの委託更新や委託地区の拡大について検討を進めていきます。

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

21 人材の育成

事業の必要性	豊富な経験をもった、いわゆる団塊世代の職員が大量に退職することや効率化による職員数の減少などから、水道技術の継承が課題となっている。		
取組の方向性	水道技術に関する研修テキスト、ノウハウ集の改訂や技術の映像化を進め、次世代の水道技術者へ知識や技術を継承するとともに、出資団体や民間事業者を対象とした研修を実施し、連携強化にも取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
内部研修時間の増加： 20年度1人11.5時間/年 →26年度1人13.1時間/年 (1.6時間/年増) 達成度：目標値達成を継続	各年度の1人当たりの内部研修時間は以下のとおりです。 22年度：14.8時間 23年度：18.3時間 24年度：19.0時間	1人当たり21.8時間となり、目標を達成しました。	内部研修は引き続き現状の取組を継続します。
研修用映像記録10本作成 達成度：目標達成の見込み	これまで4本（ろ過池調査、取水堰浚渫、漏水調査、漏水修理）の映像記録を作成しました。	4本（特殊弁の知識、外面腐食、給水装置審査・検査、当別浄水場の通水作業）の映像記録を作成しました。 映像教材は職員間で広く共有し、各種研修で活用しています。	26年度は2本の映像記録を作成する予定です。
海外研修員（JICA）の受入、10回、延べ80人 達成度：一部事業中止により達成できない見込み	6回、延べ44人の海外研修員（JICA）を受け入れました。 各年度の外研修員（JICA）を受け入れ状況は以下のとおりです。 22年度：2回14人 23年度：2回16人 24年度：2回14人	1回、9人の海外研修員（JICA）を受け入れました。 これにより計画期間中の海外研修員の受け入れは、7回、延べ53人となりました。	冬期間に行っていたJICAの「寒冷地地上水道コース」は参加希望者が少数のため25年度から中止となり、今後は年1回の受け入れとなりました。よって、計画期間中の目標は達成できない見込みとなりました。 このほか、関係機関から個別に研修生の受け入れ要請等が行われた際には、引き続き適宜対応していきます。

22 情報管理体制の充実

事業の必要性	職員が業務上必要な情報を利用・共有するための環境整備を継続しつつ、新しい技術・機器の導入による経費削減や個人情報保護のための情報セキュリティのレベルの維持向上が必要である。		
取組の方向性	仮想化技術など新しい技術・機器の導入を検討するとともに、セキュリティポリシーの適切な運用調整により、個人情報の保護に取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績状況	今後の取組
基幹情報システムへのバックアップシステム導入	バックアップシステムは対象を7システムから8システムへ拡大したうえで、6システムで導入しました。 対象となる残り2システム（上下水道料金システム、窓口システム）について、バックアップシステムの導入に着手しました。	対象となる全てのシステムでバックアップシステムの導入が完了しました。 これにより、計画期間中の目標を達成しました。	バックアップシステムや統合したサーバ機器の効率的な活用に向けた環境を整備していきます。
達成度：目標達成の見込み			
仮想化技術を活用したサーバ機器の統合	仮想化技術を活用したサーバ機器の統合は対象を10システムから13システムへ拡大したうえで、11システムのサーバ機器の統合を完了しました。 対象となる残り2システム（上下水道料金システム、窓口システム）について、サーバ機器の統合に着手しました。	対象となる全てのシステムでサーバ機器の統合が完了しました。 これにより、計画期間中の目標を達成しました。	
達成度：目標達成の見込み			

23 新エネルギーの導入

事業の必要性	水道局は自然の恵みである水資源を活用して事業を行っていることから、環境負荷の低減を図り良好な水資源を保全し将来に引き継いでいくため、地球環境に優しい新エネルギーの導入を進めていかなければならない。		
取組の方向性	水道管内の余剰水圧を活用した水力発電や太陽光発電など、投資の妥当性を勘案しながら導入を検討していく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度取組状況	今後の取組
新エネルギーにより発電される電力量の増加： 20年度 269万kwh →26年度 270万kwh(1万kwh増)	新エネルギーにより発電される電力量の実績は以下のとおりです。 22年度：315万kWh (経済効果約1,250万円) 23年度：314万kWh (経済効果約1,105万円) 24年度：321万kWh (経済効果約1,950万円)	新エネルギーにより発電した電力量は藻岩浄水場水力発電が296万kwh、配水センター太陽光発電が1万1千kwhとなり、合計297万kwhとなりました。発電に伴う電気料金削減や売電などにより、約3,900万円の経済効果を生み出しました。 25年度は、藻岩浄水場への水路の修繕工事に伴い水力発電を約40日間停止したため、発電実績は前年度より減少しましたが、新エネルギーにより発電された電気の購入を電気事業者に義務づける固定価格買取制度が25年2月から適用され、売電単価の上昇に伴い経済効果が増大しました。	太陽光発電については水道局の庁舎への導入について調査した結果を踏まえ、28年度に中部水道センター、33年度に南部水道センターに導入する予定です。
達成度：目標達成			
平岸配水池に水力発電設備を導入	平岸配水池等への水力発電設備の導入時期について検討した結果、送水管の腐食・劣化が懸念されることから、白川第3送水管の整備が完了し送水システムのバックアップ体制が整う31年度以降に導入することとしました。	31年度以降の導入に向けて、検討を継続しました。	
達成度：実施時期を見直し			
配水センター屋上に太陽光発電設備を設置	配水センター屋上に太陽光発電設備を設置完了し、23年1月20日から発電を開始しました。また、設置効果の検証を行うため、発電電力量や維持管理の状況などの基礎情報の収集を行いました。 なお、発電した電力はすべて配水センターで自家消費しています。	23年度に目標達成済みです。	
達成度：目標達成			

札幌市水道事業5年計画（2010-2014）主要事業の進捗状況と今後の取組 ～平成25年度決算版～

24 環境配慮型経営の推進

事業の必要性	良好な水資源を将来にわたって保全していくためには、環境負荷の低減に取り組んでいく必要がある。		
取組の方向性	札幌市環境マネジメントシステムによるエネルギー使用量の削減の取組や、公共工事に伴って発生する土砂やアスファルトなどの再利用・再資源化に取り組んでいく。		
計画期間中の目標	24年度までの取組結果	25年度の実績	今後の取組
環境報告書の作成と公表	<p>環境報告書を3,000部作成し、公表しました。報告書では、新たに水道局の節電対策の取組や環境保全に関する今後の取組予定を紹介したページを設け、内容の見直しと拡充を行いました。</p> <p>また、東日本大震災に伴う福島第一原発の事故を受け、これまで以上の節電対策が求められていることから、庁舎の照明をLED照明に替えるなど環境負荷低減の取組を進めました。</p> <p>（実績）</p> <p>エネルギー使用量(原油換算値)</p> <p>22年度：7,999kL（基準年比2.4%削減）</p> <p>23年度：7,859kL（基準年比4.1%削減）</p> <p>24年度：7,544kL（基準年比8.0%削減）</p> <p>※基準年は平成21年度</p> <p>建設副産物リサイクル率</p> <p>22年度：34.8%</p> <p>23年度：43.3%</p> <p>24年度：45.9%</p>	<p>環境報告書を3,000部作成し、公表しました。報告書では、水道局の環境施策について幅広い世代の利用者に理解されるよう、一部項目に対して漫画を導入し、記事内容に平易な表現を取り入れました。</p> <p>（実績）</p> <p>エネルギー使用量(原油換算値)</p> <p>：7,376kL（基準年比10.0%削減）</p> <p>建設副産物リサイクル率：37.1%</p>	水道モニターによるアンケートやワークショップを活用し、市民意見を聴取する機会を増やしていきます。
達成度：目標達成の見込み			

札幌市水道事業5年計画(2010-2014) 財政収支見通しと決算 ～平成25年度決算版～

(単位:億円)

	平成25年度				平成22～25年度 合計			平成22～26年度の見込額合計	
	計画	決算	差引	決算/計画	計画	決算	差引		
収益的収支	収益的収入 ①	429	421	△ 8	98.1%	1,714	1,698	△ 16	2,145
	うち給水収益	407	395	△ 11	97.3%	1,624	1,602	△ 22	2,031
	収益的支出 A ②	399	344	△ 55	86.3%	1,572	1,430	△ 143	1,972
	うち人件費	44	37	△ 6	85.3%	178	158	△ 20	221
	うち運営管理費	187	143	△ 44	76.4%	715	600	△ 115	904
	うち5年計画事業費 a	45	44	△ 1	98.1%	192	201	9	235
	うち企業債利息	30	29	△ 2	94.8%	133	130	△ 3	160
純利益 ③	6	40	34	667.2%	32	145	113	40	
資本的収支	資本的収入	55	40	△ 15	72.7%	226	184	△ 43	285
	うち企業債	30	20	△ 10	66.7%	120	90	△ 30	150
	資本的支出 B ④	209	244	35	116.6%	883	905	22	1,096
	うち建設改良費	105	109	5	104.7%	421	388	△ 33	528
	うち出資金	0	0	0	—	19	25	7	19
	うち5年計画事業費 b	94	73	△ 21	77.4%	398	348	△ 50	495
うち企業債償還	104	104	0	100.0%	443	443	0	547	
累積資金 ⑥	39	18	△ 21	—	—	—	—	47(26年度の見込)	
水道事業支出計 A+B	608	588	△ 20	96.7%	2,455	2,335	△ 120	3,068	
5年計画事業費計 a+b ⑦	138	116	△ 22	84.1%	590	548	△ 41	730	
企業債残高 ⑤	1,114	1,074	△ 40	—	—	—	—	1,039(26年度の見込)	
一般会計補助金等	8	9	1	110.0%	55	59	4	64	

※億円単位で端数処理をしているため、表中の計算が合わない箇所があります。

【収益的収支】

収益的収入(①)のうち主たる収入である給水収益は、厳しい経済状況等により使用水量が伸び悩み、5年計画策定時の見通し407億円に対して395億円と、約11億円下回りました。収益的支出(②)は、出先庁舎の集約と組織体制の見直しといった経営効率化による人件費の削減や、庁舎の維持管理費の削減等によって、5年計画で見込んでいた支出額から55億円縮減することができました。この結果、純利益(③)は40億円となり、5年計画の見込みより34億円上回りました。

【資本的収支】

資本的支出(④)については、配水管の更新工事を開始したことや将来の施設更新の財源として積み立てている水道施設更新積立金を長期運用したことなどによって、5年計画の見込みより35億円上回りました。しかしながら、収益的支出の大幅な削減により確保した利益を活用することで、資本的収入のうち企業債による借入を5年計画の見込みから10億円抑制することができました。

この結果、企業債残高(⑤)は5年計画の見込みと比較して40億円減少したほか、将来の施設更新に備えた積立を40億円積み立てることができ(累計130億円)、この積立金を除いた累積資金(⑥)は18億円となりました。

なお、5年計画に掲げる24の主要事業の経費である5年計画事業費(⑦)の執行状況は、総額116億円となりました。

近年、給水収益の減収が続く一方で、今後は、経年劣化した施設や管路の更新、耐震化などに多額の費用がかかる見込まれるなど、厳しい経営環境になっていくことから、利用者の皆さまに安全で良質な水を安定して供給するという水道局の使命を果たすため、主要事業をはじめ、あらゆる事業を効率的に実施してまいります。